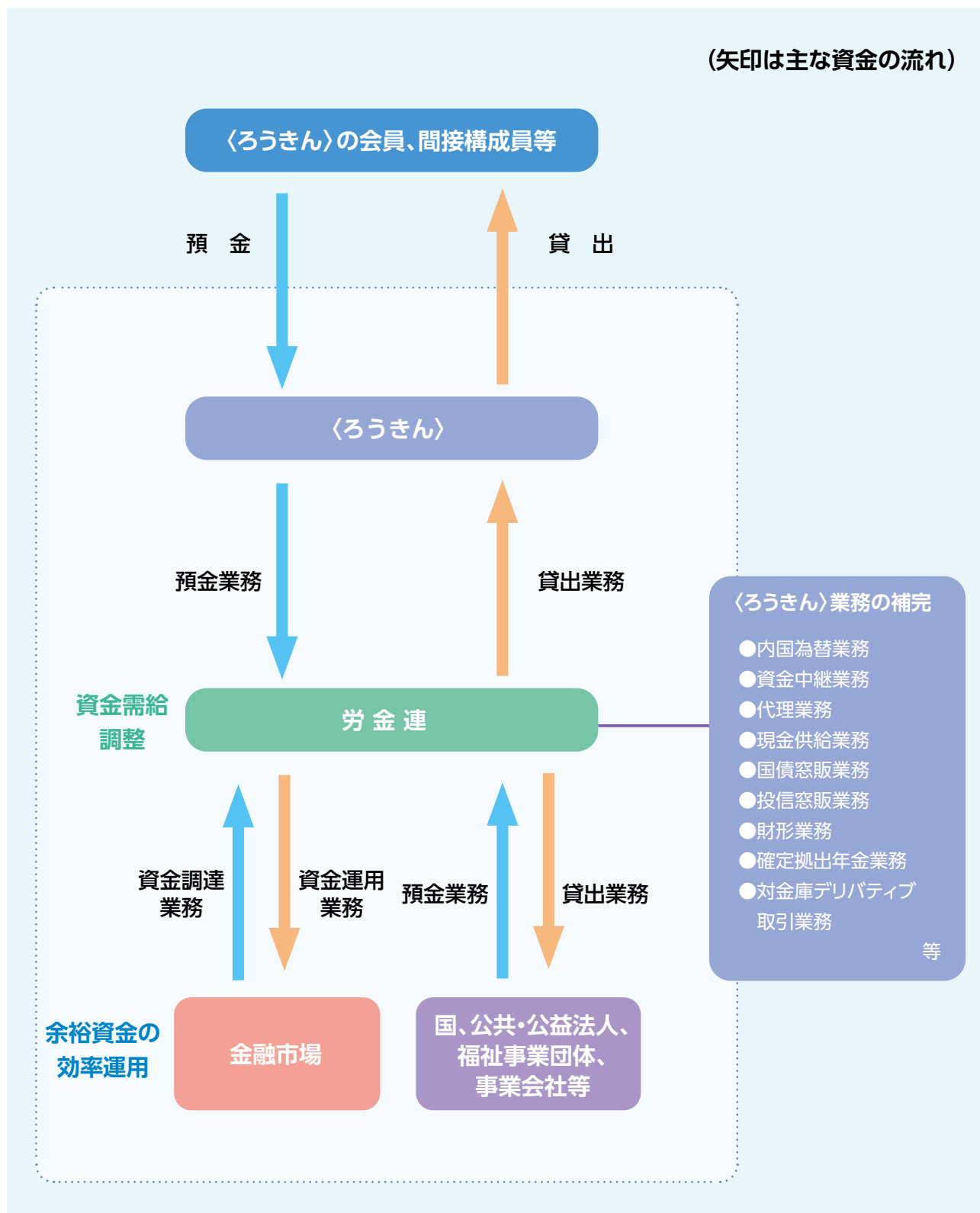


主要な業務の内容

労金連は、〈ろうきん〉の中央金融機関として、〈ろうきん〉との間で預金業務、貸出業務、内国為替などの〈ろうきん〉業務を補完する各種金融業務を行っています。そのほか、福祉事業団体、勤労者の団体、事業会社などとの法人取引を行っています。また、金融市場においては、機関投資家として資金の調達や運用を行っています。

(矢印は主な資金の流れ)



■資金調達業務

労金連の資金調達の残高(2024年3月31日現在)は、8兆4,694億円となっており、そのうち79.0%が預金です。

労金連が金融機能を十分に発揮していくためには、安定的な資金調達が不可欠です。このため、預金の受入れ以外にも、日銀金融調節や市場から資金調達を行うなど、多様な調達手段による流動性資金の適正な確保につとめています。

預金業務

労金連の預金の大部分は、会員である〈ろうきん〉から受け入れています。

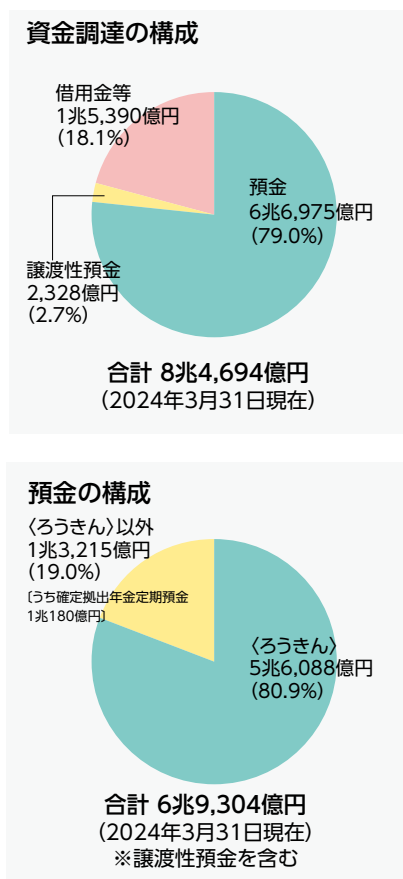
このほか、労金連では、公共法人や公益法人など、〈ろうきん〉以外のお客さまからも預金をお預かりしています。

労金連の預金の種類は、当座預金、普通預金、普通預金無利息型(決済用預金)、通知預金、定期預金など一般の金融機関とほぼ同じですが、〈ろうきん〉の中央金融機関として〈ろうきん〉を対象とした独自の預金制度を設けています。

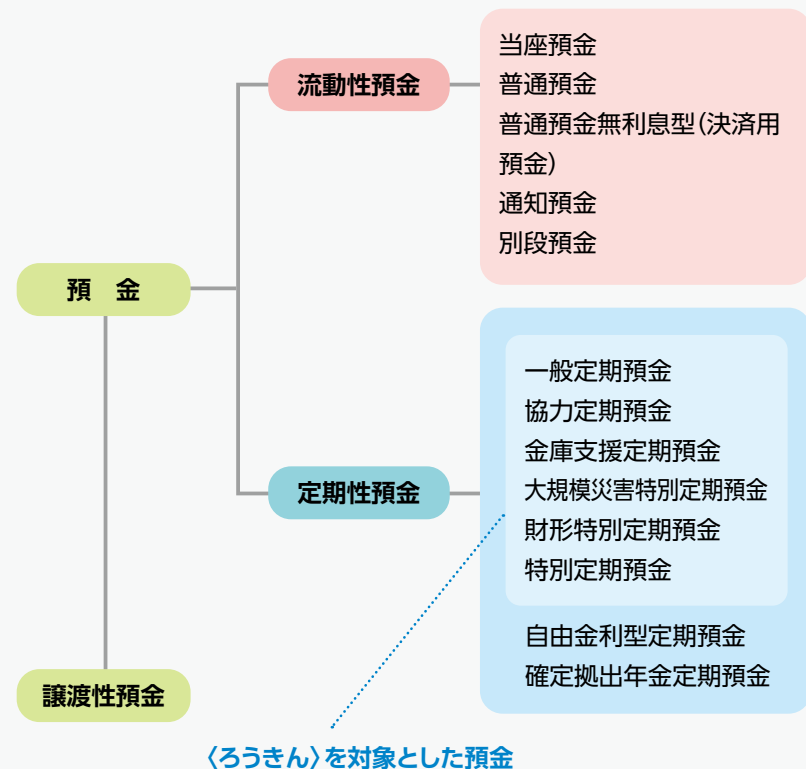
労金連は、これら〈ろうきん〉を対象とした預金により安定的な資金調達を行い、〈ろうきん〉間の資金需給調整機能を発揮するとともに、〈ろうきん〉の余裕資金の効率運用に資しています。

また、業態セーフティネットや大規模災害特別貸付の財源を確保するための預金の仕組みを作り、〈ろうきん〉業態の信用維持につとめています。

2024年3月31日現在の預金の残高(譲渡性預金を含む)は、6兆9,304億円となっています。



労金連の預金制度



■資金運用業務

労金連には、〈ろうきん〉の余裕資金を効率的に運用し、安定的に収益を還元するという中央金融機関としての重要な役割があります。この役割を果たすため、労金連は、さまざまな運用手段を用いて資金の効率的な運用につとめています。

労金連の資金運用は金融市場運用の割合が高く、なかでもその中心的位置を占めているのが有価証券運用です。

総資産8兆8,556億円(2024年3月31日現在)のうち、53.1%が有価証券等による運用資産です。

貸出業務

会員である〈ろうきん〉への貸出は、〈ろうきん〉間の資金需給の調整、〈ろうきん〉業態の信用維持、災害時の被災者への支援などを主な目的としています。

また、労金連は、会員である〈ろうきん〉のほか、国や公共法人・公益法人、一部の株式会社などにも貸出を行っています。

2024年3月31日現在の貸出金の残高は、1兆3,313億円となっています。

市場運用業務

労金連は、全国の〈ろうきん〉の余裕資金の効率運用と〈ろうきん〉間の資金需給の調整を主な目的として、国内を中心とする金融市場で資金運用を行っています。

(有価証券運用)

有価証券運用は、中長期的な視野に立ち、期間収益の確保と自己資本の健全な成長を目的として、債券を中心としたポートフォリオを構築しています。

運用にあたっては、マクロ経済環境や市場動向の分析を行うとともに、債券の金利を主な収益源泉と位置付け、国債・地方債をはじめとする公共債のほか、内部規程に基づく投資適格債に投資を行っています。

このほか、金利上昇リスク対応としての変動債や、分散投資の観点から外貨建債や株式・投資信託、オルタナティブ

ファンド等にも幅広く投資を行っています。

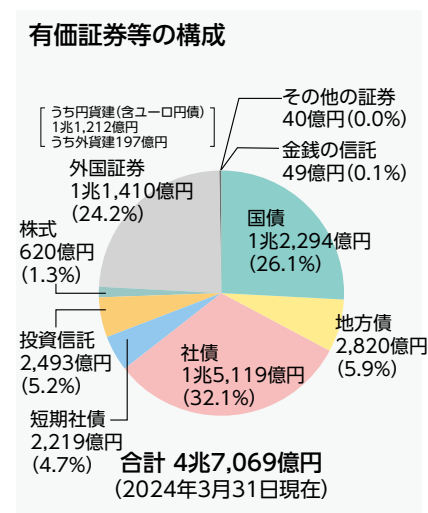
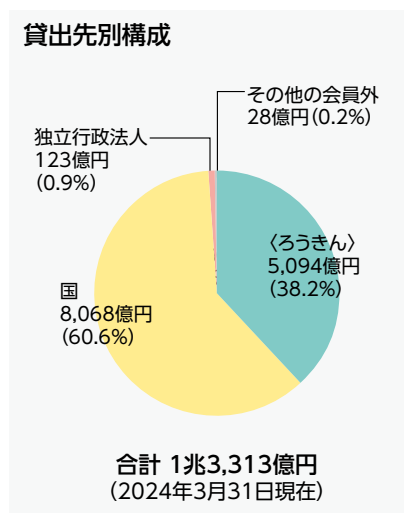
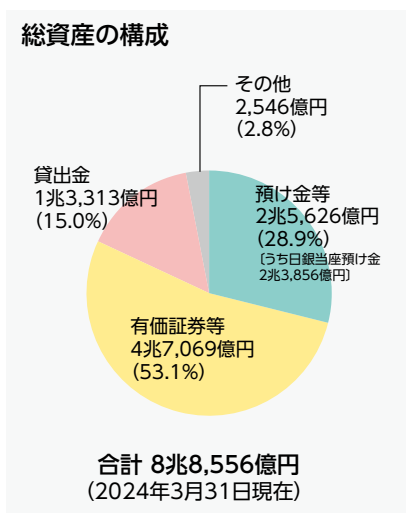
また、リスク管理は、デュレーションの管理や投資対象別限度額の設定とともに、金利リスク・信用リスク・流動性リスク等の状況をモニタリングすることにより、過度のリスクを取ることをないようつとめています。

2024年3月31日現在の有価証券(短期社債を除く)および金銭の信託の残高は、4兆4,849億円となっています。

(短期金融市場業務)

労金連は、信用リスク・流動性リスクに留意しながら、支払準備資産である短期資金の運用を行っています。

2024年3月31日現在の短期運用資産残高(国への入札貸付等、短期運用見合いの貸付8,081億円を含む)は、3兆5,850億円となっています。



〈ろうきん〉業務の補完

内国為替業務等

〈ろうきん〉は、国内の民間金融機関との間で内国為替取引やATM提携サービスをはじめとした、各種情報ネットワークサービスを提供しています。

労金連は、〈ろうきん〉業態を代表して、労働金庫内国為替制度の運営や為替貸借の決済を行うとともに、業態統一の窓口として各種情報ネットワークサービスとの資金決済を担っています。

(内国為替業務)

〈ろうきん〉の内国為替は、労働金庫内国為替制度に基づき取り扱っており、オール・ワンシステムによりオンライン処理されています。

労金連は、労働金庫内国為替制度を運営するとともに、〈ろうきん〉相互間の為替貸借の決済を行っています。

また、〈ろうきん〉は、オール・ワンシステムと全国銀行データ通信システム(全銀システム)との接続により他の全銀システム加盟金融機関ともオンラインで結ばれ、〈ろうきん〉以外の金融機関との為替取引が行えるようになっています。

内国為替取扱実績

(単位: 件)

項目	区分	2022年度		2023年度	
		労金連	〈ろうきん〉合計	労金連	〈ろうきん〉合計
送金・振込	各地へ向けた分	1,463,127	8,357,350	1,528,517	8,797,556
	各地より受けた分	80,644	30,489,421	82,008	31,632,978
代金取立	各地へ向けた分	—	104	—	11
	各地より受けた分	—	89	—	30
合計	各地へ向けた分	1,463,127	8,357,454	1,528,517	8,797,567
	各地より受けた分	80,644	30,489,510	82,008	31,633,008

(その他の各種サービス)

〈ろうきん〉は、全国の〈ろうきん〉のネットワークと各種提携先を接続して、さまざまな情報ネットワークサービスを提供しています。

労金連は、業態統一の窓口として各種情報ネットワークサービスとの資金決済を行っています。

- ATM提携サービス(全国〈ろうきん〉間、全国〈ろうきん〉とMICS(入金ネット・他行カード振込を含む)、イオン銀行、ゆうちょ銀行、セブン銀行、ローソン銀行、イーネット、ビューカード)
- デビットカードサービス・Bank Payサービス※
- マルチペイメントネットワーク(ペイジー収納サービス・ペイジー口座振替受付サービス)
- ネット口座振替受付サービス
- CDキャッシング

※「Bank Pay」は日本電子決済推進機構が運用する「J-Debit」の仕組みを活用した決済サービスです。



資金中継業務

労金連では、全国の〈ろうきん〉が口座振替により収納した国税收納金、国民年金保険料や公共料金、クレジットカード利用代金などの資金を取りまとめ、一括して日本銀行や民間企業との決済を行っています。

また、労金連では、国の年金やその他の国庫金の振込、民間給与振込など、全国の〈ろうきん〉に開設されているお客さまの口座への振込業務も受託しています。

代理業務

労金連は、日本銀行歳入代理店業務のほか次の機関の業務の代理を行っています。

- 独立行政法人住宅金融支援機構
- 株式会社日本政策金融公庫
- 独立行政法人勤労者退職金共済機構
- 一般社団法人日本労働者信用基金協会
- 預金保険機構

現金供給業務

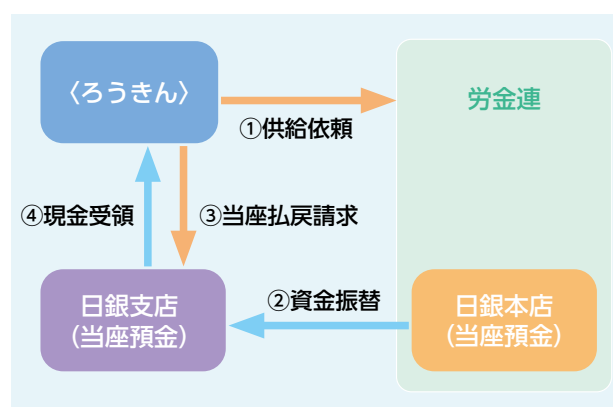
労金連は、全国の〈ろうきん〉が日々必要とする業務用現金を安定的かつ確実に調達できるよう、〈ろうきん〉業態で唯一認められている日本銀行本支店との当座取引を通じて現金の供給を行っています。

また、余剰となった現金は日本銀行の当座預金口座へ入金しています。

2023年度取扱実績

日本銀行からの現金払戻	561件	9,372億円
日本銀行への現金入金	86件	13億円

労金連の現金供給業務の流れ

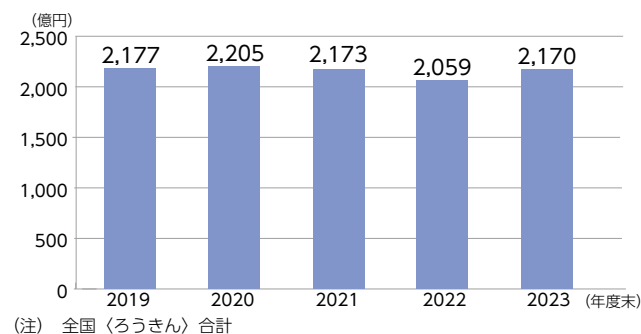


国債窓販業務

〈ろうきん〉では、お客さまの資金運用ニーズに幅広くお応えするため、個人向け国債(3年、5年、10年)の窓口販売業務を行っています。

労金連は、〈ろうきん〉が行う国債窓口販売に係る取りまとめ機能を担うことにより、〈ろうきん〉の国債窓口販売業務をサポートしています。

国債窓販残高の推移



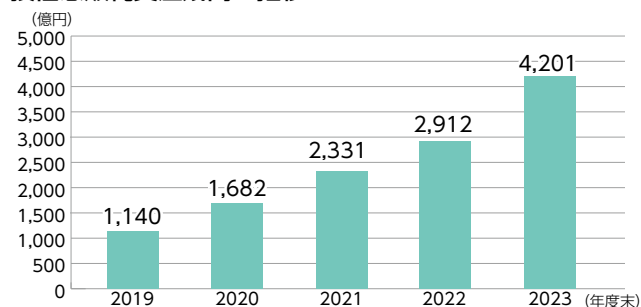
投信窓販業務

〈ろうきん〉は、登録金融機関として投資信託の販売を行っています。

労金連は、全国の〈ろうきん〉の委託を受け、投信委託会社、信託銀行との間で指定販売会社としての取りまとめ機能を担っています。

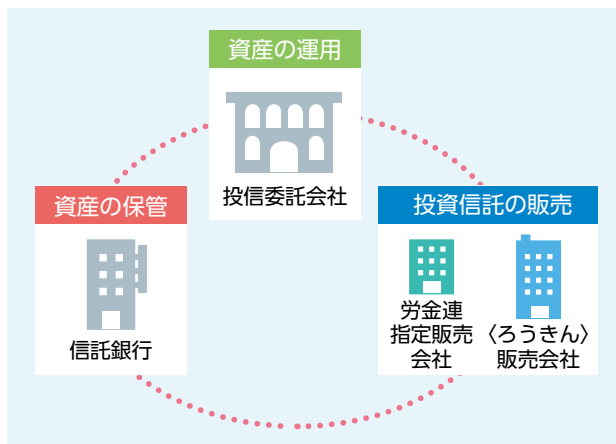
また、投資信託の商品の選定を行い、投資対象資産や投資対象地域の分類等による幅広い品揃えを提供するなど、各〈ろうきん〉における資産運用サービスのサポートに取り組んでいます。

投信窓販純資産残高の推移



(注) 1. 全国〈ろうきん〉合計
2. 純資産残高は「各年度3月31日時点の基準価額×残高口数」にて算出
3. 純資産残高には確定拠出年金 (DC) 向け商品を含む

労金連投信窓販業務の仕組み



財形業務

労金連は、全国規模の企業・団体における財形預金の事務手続き（各種書類の授受や積立金の振込など）が円滑に行われるよう、全国〈ろうきん〉の窓口としての役割を担っており、ろうきん財形契約件数約227万件のうち、38万件が労金連を通じて取引されています。（2024年3月31日現在）

また、財形預金のトップバンクとして“便利で使いやすい財形預金”をめざし、インターネットでの残高照会や一般財形の払戻等のサービス向上、さらに財形制度の改善にも積極的に取り組んでいます。

確定拠出年金業務

（企業型確定拠出年金）

労金連は、全国の〈ろうきん〉を代表して、企業型確定拠出年金の商品提供機関の役割を担っており、元本確保型商品である「ろうきん確定拠出年金定期預金（期間5年）」・「ろうきん確定拠出年金定期預金（期間1年）」を提供しています。

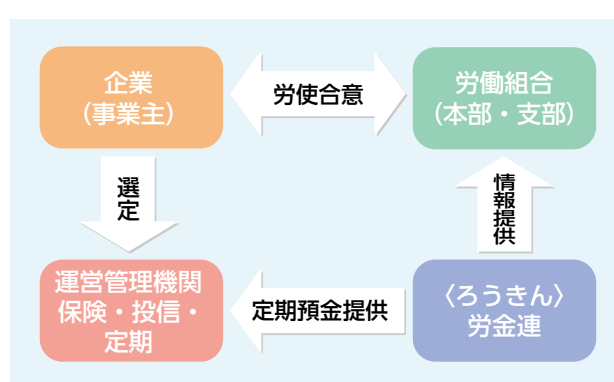
また、労金連が企業型確定拠出年金の運営管理機関となる総合型確定拠出年金「ろうきんDCプラン」を取り扱っています。

（個人型確定拠出年金《iDeCo》）

全国の〈ろうきん〉では、個人型確定拠出年金商品「ろうきんiDeCo（個人型年金プラン）」を取り扱っており、お客さまの利便性向上のため、加入・移換手続きの電子申込も受け付けています。

iDeCoは、税制上の優遇措置を活用した、より豊かな老後生活を送るための資産形成方法のひとつとしてお客さまにご提案しており、労金連は、iDeCoスペシャルサイトや専用コールセンターの運営、各種推進ツールの作成など全国の〈ろうきん〉の推進活動・事務の支援を行っているほか、全国の〈ろうきん〉を代表して、確定拠出年金普及・推進協議会に参加し、iDeCoの制度普及に取り組んでいます。

企業型確定拠出年金の仕組み



対金庫デリバティブ取引業務

労金連は、全国の〈ろうきん〉に対し、リスクヘッジ機能を提供することを目的に、金利スワップ取引等のデリバティブ取引を行っています。

〈ろうきん〉業務の支援

上記以外にも、労金連は、事務の統一化・標準化、業態統一規程の管理や業態事務集中化の対応など〈ろうきん〉の業務および事務の支援を行っています。

その他

労金連では、商品有価証券売買業務、社債受託および登録業務、ならびに信託業務は行っていません。

総合事務センター

総合事務センターは、1989年12月にろうきんバンキングシステムの共同センターとして設立され、全国〈ろうきん〉の金融業務、内国為替取引のほか、ATM提携など対外機関との決済に係るオンラインシステムの運用を担っています。

〈ろうきん〉統一オンラインシステム（ユニティシステム）は、1990年以降、各地域の〈ろうきん〉のシステムを順次統合し、2003年5月の勘定系リニューアル等を経て、2007年1月に〈ろうきん〉業態のオンラインシステムの全国一本化が完了しました。

また、2014年1月5日からは、業態競争力の飛躍的強化やITコストの削減をねらいとした新たなオンラインシステム「アール・ワンシステム」が稼働しています。

〈ろうきん〉では、お客さまが来店することなくお取引がで

きるチャネルとして、他金融機関やコンビニATMとの提携サービス、パソコンやスマートフォンによる「ろうきんダイレクト」、「ろうきんアプリ」などのサービスを提供しています。

また、キャッシュレス決済を活用してお客さまの日常生活をサポートするため、スマホ決済サービス「PayPay」「LINE Pay」「J-Coin Pay」への〈ろうきん〉口座からの電子マネーチャージにも対応しています。

総合事務センターでは、お客さまに安心してご利用いただくため、「アール・ワンシステム」の安定稼働に努めるとともに、制度・政策課題への取組み、「ろうきんアプリ」の機能拡充や営業店におけるタブレット端末の活用などの金融デジタライゼーションに対応した取組みおよびサイバーセキュリティ強化の取組みなどを実施していきます。

*主なATM提携先

- MICS加盟の金融機関
- 「入金ネット」マークのある金融機関
- イオン銀行（主な設置先：イオン・マックスバリュ・ミニストップなど）
- ゆうちょ銀行
- セブン銀行（同：セブン-イレブン・イトーヨーカドーなど）
- ローソン銀行（同：ローソン）
- イーネット（同：ファミリーマート他）
- ビューカード（同：「VIEW ALTE」JR東日本の駅構内）

*主なアプリ等提携先

- 家計簿アプリ（マネーツリー、マネーフォワードなど）
- スマホ決済サービス（PayPay、LINE Pay、J-Coin Pay、Bank Pay）

アール・ワンシステム全体構成

